

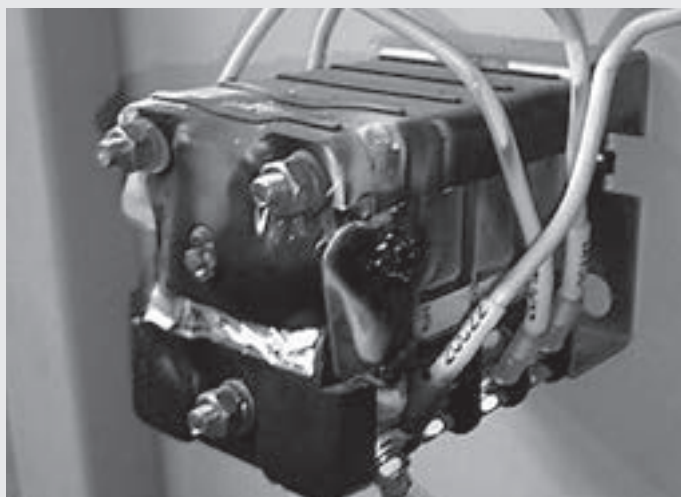
## 小さな変化も見逃すな

新川営業所 松原 利延

電子部品を製造しているお客さまへ月次点検にお伺いしました。いつものように電気室の点検を始め、受電盤で計器の表示を確認したところ、電流計がいつもの値と違うことに気がつきました。このお客さまは、主電気室から3箇所の子電気室に電気を送っていることから、送りの電流計の値を合計し、受電盤の電流と比較してみました。全く合いませんでした。この時は、電流計の表示の誤り（故障）程度にしか考えていませんでした。お客さまには、受電盤等の測定値の詳細について提出していたので、別の方法で測定するため試験端子（CTT）で電流を測定しようと思いクランプ式電流計で見たところ、表示の誤りと思われた電流計と同じく変な電流が流れていました。これは電流計の故障ではないと思い、受電盤の裏にまわり、目視点検を実施しました。充電部が近いので安全を考慮し距離をとり眼を凝らしよく見てみると、電流の「切替器」の配線が焦げているようでした。また、電流計が接続されているCTTおよび過電流継電器に検電器で触れてみるとピーピー音が出ていました。通常は接地が施されていることからこのようなことはありません。このままにしておくと変流器の故障につながり停電事故になるところでした。

お客さまに事情を説明し応急処置を施し、後日、改修していただき事なきを得ることができました。もし、停電事故となっていたらどうなっていたらだろうか…。鳥肌がたってしまいます。「切替器」は決して大きな機器ではないですが、故障すれば停電事故など大変な事態になっていたことも考えられます。電気設備には多くの機器が使用されています。小さな変化も見逃しではいけないと思った体験でした。

当協会では、日頃から電気事故を未然に防止するため、異常の早期発見、迅速な対処ができるよう技術力を高める教育・訓練をしています。普段より電気について気になることがございましたらどんな事でもお気軽にご相談ください。



焦げた切替器